

第4章

異類の活躍

Various Activities of Supernatural Beings

奈良絵本・絵巻に描かれる物語では、擬人化された動植物や道具なども多く登場します。これら異類たちは人間の擬態で描かれ、人間と同じようにいろいろな感情を持ちながら生活しています。

本章では、擬人化された動植物の物語が描かれた『いなり妻の草子』や『さくらの姫君』を取り上げるとともに、感情を持つはずがない器物が感情を持って付喪神へと変化し活躍する『付喪神記』や『百鬼夜行絵巻』などを紹介します。これらを見ていくことで、今日のアニメーションの起原としても古典があることを確かめていきます。



いなり妻の草子

The Tale of the Inari Wife: the Miracle of a Man who Weds a Fox Spirit

稲荷大明神に祈願し、白狐を妻とした男が裕福になる物語。



ふくろう

The Tale of the Owl

老いたふくろうと、うそ姫の悲恋の物語。



【付喪神記】

The Tale of Tool Specters

監修：針本正行（國學院大學 文学部教授）

執筆：荒木優也（國學院大學 研究開発推進機構ポスドク研究員）

編集・展示：大東敬明（國學院大學 研究開発推進機構准教授）

渡邊 卓（國學院大學 研究開発推進機構助教）

陣内理良（國學院大學博物館学芸員）

翻訳：スワンソン・エリック（ハーバード大学 東アジア言語文明学部博士課程）

本展示は國學院大學校史・学術資産研究センターで進めている研究事業「國學院大學の学術資産の研究と展示公開」の成果の一部である。

企画展 神仏・異類・人

—奈良絵本・絵巻にみる怪異—

会期：平成27年11月21日(土)～平成28年2月7日(日)

前期：平成27年11月21日(土)～12月23日(水)

後期：平成28年1月8日(金)～2月7日(日)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

ミュージアムトーク

平成27年11月21日(土)、12月19日(土)

平成28年1月9日(土)、1月23日(土)

ワークショップ「妖怪絵巻をつくろう！」

平成28年1月24日(日) ※詳しくはホームページをご覧ください

國學院大學博物館

KOKUGAKUIN U.M.

Kokugakuin University Museum

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 〔國學院大學渋谷キャンパス内〕

TEL：03-5466-0359 WEB：http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/index9.html

【開館時間】午前10時～午後6時(入館は午後5時半まで) 【入館料】無料

【会期中休館日】12/7・12/24～1/7・1/16・1/17・1/25

【アクセス】渋谷駅より徒歩またはバス ※キャンパス内に駐車場・駐輪場はございません。

■渋谷駅(JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線)から徒歩約13分

■渋谷駅(JR埼京線)新南口から徒歩約10分

■都営バス(渋谷駅東口バスターミナル54番のりば 学03日赤医療センター行)

〔国学院大学前〕下車

趣旨

日本には、ふるくから不思議な物語があります。たとえば、かぐや姫が月にのぼる物語、大むかでや鬼といった化け物を退治する物語、ねずみが人間のように生活する物語などです。

これらの物語では、人間だけではなく、神仏や鬼・妖怪などの異類も、さまざまな思いを抱えながら感情豊かに、また魅力的に活躍します。

こうした不思議な物語の多くは、室町時代後期から江戸時代中期にかけて制作された彩色入りの写本〔奈良絵本〕に仕立てられました。その絵は、素朴で淡い色彩のものから、金銀などが使用された豪華絢爛なものまで種々さまざまで、現代にいたるまで多くの人々の目を楽しませてきました。

本展示では、現実にはありえない不思議なこと〔怪異〕を描いた奈良絵本・絵巻を通して、物語のおもしろさや魅力を紹介します。

第1章

王朝の絵巻

Picture Scrolls of the Imperial Court



竹取物語 ハイド旧蔵

The Tale of the Bamboo Cutter (Takatori)



源氏物語「桐壺」

The Tale of Genji

王朝物語にも不思議な物語は見られます。『源氏物語』『絵合』に「物語の出で来はじめの親」と書かれる『竹取物語』は、本来「月」に住むかぐや姫という天人が主人公です。『源氏物語』『桐壺』には、まだ幼い光君(源氏)の将来が人相見によって明らかにされる不思議な場面があります。

また、後世の〔怪異〕に影響を与えた物語もあります。たとえば、『源氏物語』『夕顔』『葵』には、物の怪が夕顔や葵上を取り殺すことが書かれますが、のちにこれをもとに能『葵上』などが生まれます。また、『伊勢物語』『芥川』に見られる「鬼はや一口」という本文は、能『山姥』『通小町』において怪異の象徴として引用されます。

本章では、後世に〔怪異〕の出典元となる王朝物語の絵と本文を見ながら〔怪異〕の起原の一つを探てみます。



『百鬼夜行絵巻』

The Night Parade of a Hundred Demons

第2章 異類の顕現

Manifestations of Supernatural Beings



酒吞童子

The Slaying of Shutendōji

源頼光・藤原保昌・四天王らが酒吞童子を退治する物語。



【賢学草子】

The Tale of Buddhist Monk Kengaku

女性を裏切った僧・賢学が、蛇に変化した女性に日高川へ引きずり込まれる物語。



田村の草子

The Tale of Tamuramaru's Family

藤原俊仁・俊宗(田村丸)親子による異類退治の物語。



磯崎

The Wife of Isozaki

磯崎殿の妻が、鬼の面を付けてもう一人の妻を殺す。そして、のちに仏法に帰依する物語。



羅生門

The Rashōmon Gate: the Slaying of the Ogre

頼光四天王のひとり渡辺綱が源氏の宝刀・膝丸、髭切で羅生門に住む鬼を退治する物語。

依藤太物語

The Tale of Tawara no Toda
(Fujiwara-no-Hidesato)

依藤太(藤原秀郷)が大むかでの退治し、そのお礼として、龍宮で米の尽きることのない俵や鐘(のちの三井寺の鐘)などを賜る物語。



第3章 神仏の哀歓

Joys and Sorrows of the Kami and Buddhas

室町時代に書かれた物語の中には、人間と同じように喜怒哀楽さまざまな感情を持つ神仏が主人公になる場合もあります。たとえば、「本地物」と呼ばれる神仏の前世をえがく物語では、前世で人間界に生まれた神仏が人間としてさまざまな困難や苦しみに遭います。そういう「本地物」がある一方で、神仏が人間と同じように合戦をしたり、遊び戯れたりする物語もあります。そこには、ふだん私たちが持っているイメージとは違った神仏の姿が描かれています。

本章では、「本地物」の代表的な作品として『熊野の本地』を紹介します。また、七福神として有名な恵比須、大黒がそれぞれ魚類、ねずみを率いて戦おうとする『隠れ里』や、神仏や聖人たちの遊び戯れる姿を描くことで現実を諷刺した『異代同戯図』などを見ていきます。そこには、人間と神仏の距離の近さが認められるのではないのでしょうか。



【熊野の本地】

The Origins of the Kami Enshrined at the Kumano Shrines

苦難を味わった天竺の五衰殿の女御らが、日本の熊野に飛来して神となる物語。



隠れ里

The Hidden Village: A Tale of the Conflict between Ebisu and Daikoku

恵比須と大黒が合戦寸前となるが、布袋が仲裁する物語。



異代同戯図

Illustrations of Kami, Buddhas, and Sages from Diverse Periods Frolicking Together

神仏・聖人たちが賭博をする場面。

